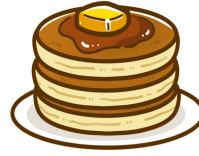




インダ珈琲



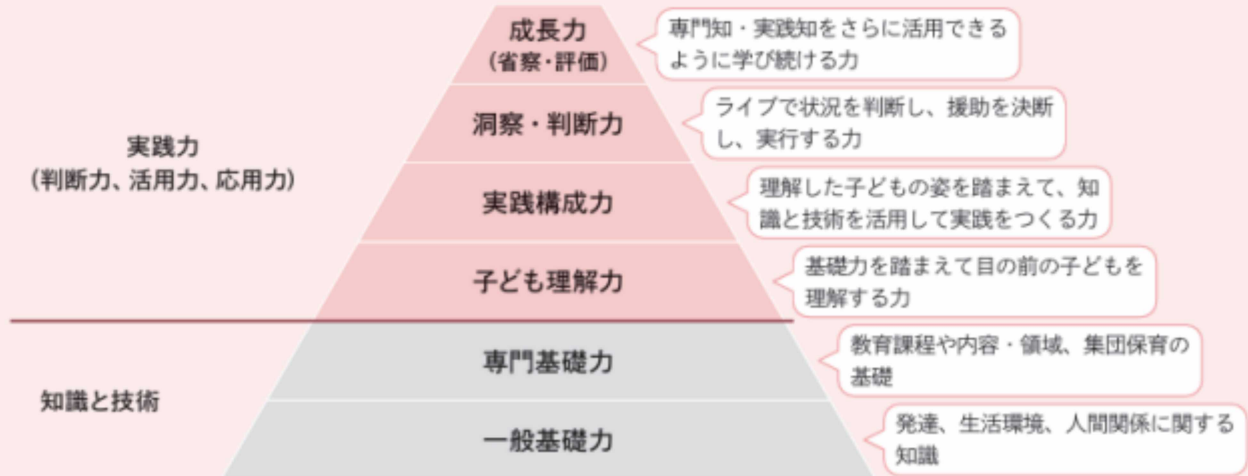
第37話

2025.11.5

Misato Kita

Miyazaki

図1 保育者の専門性



*北野先生の提供資料をもとに編集部で作成。

*幼稚園教育要領、保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領を指す。



保育者

「保育者の専門性」

(引用：神戸大学大学院教授 北野幸子先生)

少子化や人間関係の多様化、多様な価値観に伴う保護者の要望への対応、特別な支援を要する子どもの増加など、保育を取り巻く環境は、近年大きな変化を余儀なくされています。そのため、保護者と保育者双方に、より高い専門性を身につけることが強く求められています。

そこで、北野先生は2つの保育ならではの独自性を提案されています。

1つは「子どもからという考え方を徹底し、個々の子どもの主体性を最大限尊重することです。」

1つは、「生活や遊びの文脈の中で自然に学びを培うこと、つまり、目的志向型や結果主義ではなく、プロセスを大切にした教育である」

個々の子どもたちを深く観察し、理解を深め、その育ちや学びをサポートし、意欲を持たせるのが保育者の専門性ではないか？

★保育者の専門性★ (解説)

その1から「子どもからという考え方を徹底し、個々の子どもの主体性を最大限尊重する」

1. 主体性の尊重と「子どもから」の徹底

これは、大人の都合や結果主義を排し、子どもの内発的な興味と試行錯誤のプロセスを起点にする、保育者の高度な専門性です。「子どもから」の視点の徹底と、自分で考え行動する主体性の尊重こそが、生きる力の土台を育みます。

2. 意図的な環境構成を通じた育ちの支援

保育者は、子どもの発達に関する科学的な知識を基盤に教育を実践する専門家です。教え込みではなく、子どもが自発的に学び、育ち合うための最適な人的・物的「環境」を意図的に構成・活用することこそが、保育独自の専門技術です。

3. 「プロセス重視」の生活・遊びを通じた学び

幼児期の学びは、生活と遊びという文脈の中で、自然に、そして複合的に培われます。特定の目標達成や結果ではなく、挑戦や創意工夫といったプロセスそのものを価値ある経験として尊重し、意欲や非認知能力を豊かに育むことが重要です。